

2017

JAHFA
JAPAN AUTOMOTIVE HALL OF FAME

論壇

Contribution to
JAHFA



技術開発の長期ビジョン 「サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言2030」

マツダ株式会社
代表取締役社長兼CEO

小飼 雅道

今回の論壇において、マツダが今後も継続的に成長するための重要な要素である、中長期的な商品・技術の次なる進化についてお伝えしたいと思います。

私は、常々企業がお客様に信頼され、強い絆を持つためには、その企業がお客様にとってなくてはならない存在であるべきと考えています。その企業が持つ「大義」や「哲学」を通じて生み出された商品、技術、サービスにお客様は共感し、絆を深めて頂けるものと信じています。

マツダは2012年初頭に、「SKYACTIV 技術」と「魂動デザイン」を初めて搭載した新世代商品第1弾、CX-5を発売し、これをきっかけに構造改革を進めて参りました。この間、「ブランド価値」の向上に焦点をあて、マツダの企業価値を高める経営を進めてきました。

現在までの成長の大きな推進力となったのは、会社の生き残りをかけて2007年に発表した、技術開発の長期ビジョン「サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言」でした。以来、お客様視点の「走る歓び」と、自動車メーカーとしての社会的責任である「環境・安全」性能の全てを高い次元でブレークスルーし、ご購入頂いたお客様の心に訴え、ご愛用頂いている日常の中でその性能を体感し、ご満足頂ける技術を愚直に開発して参

りました。

そして現在、構造改革の第2ステージとして、「商品・販売・生産・財務の質的成長」と「ブランド価値向上」により、さらなる成長の達成に向けて一生懸命取り組んでおります。2007年に発表した「サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言」から10年が経ち、マツダの状況、そして自動車産業を取り巻く環境も大きく変化しています。

そうした変化を踏まえて、マツダが将来にわたって自動車会社として存在を期待される企業であり続けるために、私たちは新しいチャレンジ「サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言2030」を先日発表致しました。

これは、「私たちはクルマを愛しています」から始まる、私たちのコーポレートビジョンにもとづき、クルマの持つ魅力である「走る歓び」によって、「地球」、「社会」、「人」のそれぞれの課題解決に向けた技術開発の長期ビジョンです。

私たちマツダは、美しい地球と心豊かな人・社会の実現を使命と捉え、クルマの持つ価値により、人の心を元気にすることを追求し続けて参ります。全社員が、「地球」、「社会」、「人」に対する課題認識を常に持ち、その解決に向けた独自のアプローチによる取り組みを

進めて参ります。

まず、「地球」については、地球温暖化の要因となる温室効果ガスについて、実質的なCO₂削減に繋げて行かねばならないと考えています。又、CO₂削減だけでなく、各国大都市部で大気汚染が深刻化している課題にも目を向ける必要があります。

これらの課題に対し、車のライフサイクル全体でのCO₂削減に取り組む必要があります。いままでの走行段階のCO₂評価のTank-to-Wheelだけでなく、エネルギーの採掘、製造、輸送段階のCO₂評価も組み入れたWell-to-Wheel視点でのCO₂削減を進めます。

具体的な目標として、Well-to-Wheelでの企業平均CO₂を、2010年比2050年で90%削減を将来的に睨み、2030年で50%削減を目指します。この実現に向けては、各地域における自動車のパワーソースの適性、エネルギー事情や電力の発電構成を踏まえ、EVも含めた、適材適所の対応が可能なマルチソリューションが必要と考えています。

その取り組みの中心は、将来においても世界的に大多数を占めると予測される内燃機関を活用することです。世界一をめざし、内燃機関の可能性を追求し、実用環境下で極限までCO₂削減を進めて行くことが、課題解決のための実効性が高く、かつ私たちに求められていることと考えています。

内燃機関の徹底的な理想追求として、この度、次世代エンジンの量産にメドを付け、2019年に市販化を計画しています。次世代エンジンは、ガソリンエンジンとディーゼルエンジンのそれぞれの利点を持ち、全く新しい燃焼方式と提供価値を実現した、「新種」のエンジンです。ガソリンとディーゼルのクロスオーバーという意味で、「SKYACTIV-X」と名付けました。

次に「社会」については、現代において新たな事故の要因が顕在化しています。例えば、スマートフォンなどによる情報量増加による注意散漫運転や、増加する高齢ドライバーによる運転操作ミス、過労／疾病等の影響による危険運転などの課題があげられます。

また、過疎地域における公共交通の弱体化・空白化や、高齢者やお体の不自由な方など、交通面で不便をされている方々の増加など、社会構造の変化に伴う課題の顕在化。

これらの課題に対し、私たちは、安心・安全な車社

会の実現により、全ての人が、全ての地域で、自由に移動し、心豊かに生活できる仕組みを築いて参ります。

例えば、“事故の無い安全なクルマ社会”を目指し、ドライビングポジション、ペダルレイアウト、視界視認性、アクティブ・ドライビング・ディスプレイなどの基本安全技術を進化させ、加えて、先進安全技術の継続的な性能向上と標準装備化をすすめます。

次のステップでは自動運転技術を活用した、ドライバーがいつまでも安心して運転を愉しめる「Mazda Co-Pilot Concept」を2025年に標準装備化することを目指します。

最後に、「人」の領域です。現代の人々は機械化や自動化により経済的な豊かさの恩恵を受けていますが、一方で、日々体を動かさないことや、人や社会との直接的な関わりが希薄になることで、新たなストレスが増加しています。

このような問題に対して、私たちはより多くのお客様に、車の所有や運転を通じて「走る喜び」を感じて頂き、更にそのことによって地球や社会への貢献を感じて頂ける車を提供することで、人としての高揚感、達成感が得られ、人間らしい心豊かな人生を味わって頂くことを目指して参ります。

このために、私たちの強みである、運転を通じて人の能力を引き出し、心と体を活性化させる「人馬一体」感と、見る人の心を豊かにする生命感を感じるデザインを更に研ぎ澄ませて参ります。

以上、これらの取り組みを通じて、私たちマツダは、美しい地球と心豊かな人・社会の実現を使命と捉え、クルマの持つ価値によって人の心を元気にすることを追求し続けます。

私たちは、お客様にマツダ車にずっと乗り続けたいと言って頂ける、お客様と強い絆で結ばれた存在、すなわち「マツダプレミアム」の実現を目指します。豪華で高価格と示すものではなく、私たちが心から目指している、「走る喜び」の力によってお客様の人生を輝かせる、お客様との強い絆をもった世界一の車づくりを目指して参ります。